

三 次の文章は、以前から恋愛関係にある和泉式部に対して、帥官が地方へ行く女に送る歌の代作の依頼をしてきた場面である。これを読んで、後の間に答えなさい。(30点)

かくて、つごもりがたにぞ御文ある。日ごろのおほつかなさなど言ひて、「あやしきことなれど、日ごろもの言ひつる人なむ遠く行くなるを、あはれと言ひつべからむことなむ。一と言はむと思ふに、それよりのたまふことのみなむさはおほゆるを、一つのためへ」とあり。あなしたり顔と思へど、「さは聞ごゆまじ」と聞ごえむも、いとさかしければ、「のたまはせたることは、いかでか」とばかりにて、

「(一) 惜しまるる涙に影はとまらなむ心も知らず秋は行くとも
まめやかには、かたはらいたきことにも侍るかな」とて、端に、
「さても、

(ii) 君をおきていづち行くらむわれだにも憂き世の中にしひてこそ経れ」とあれば、

「思ふやうなりと聞ごえむも、見知り顔なり。あまりぞおしはかり過ぐい給ふ、憂き世の中と侍るは。

(iii) うち捨てて旅行く人はさもあらばあれまたなきものと君し思はばありぬべくなむ」とのたまへり。

『和泉式部日記』による

注 日ごろもの言ひつる人……このところ帥官が通っていた女性。

またなきもの……二つとないもの。

〔問一〕 傍線(1)「つごもりがた」とあるが、これは何月の月末のことか。もっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 三月 B 五月 C 七月 D 九月 E 十一月

〔問二〕 傍線(2)(4)(6)の解釈としてもっとも適当なものを左の各群の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

- (2) 「日ごろのおぼつかなさ」
- A 日没後の足元の悪い様子
B ここ数日の不審な行動
C 最近の疎遠なこと
D 日中の心細いこと

- (4) 「さほえ聞こゆまじ」
- A そんな代作のようなことはとてもできません
B それでは相手を感動させることなどできません
C そんなことならもう歌など詠めるはずありません
D そうはいつでも相手は代作だと気づけないかもしれません

- (6) 「かたはらいたきこと」
- A 緊張すること
B 笑止千万なこと
C 傍若無人なこと
D きまりの悪いこと

〔問三〕 傍線(3)「のたまふ」の主語を左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 帥宮 B 和泉式部 C 地方へ行く女 D 一首 E 文

〔問四〕 傍線A～Dの「なむ」のうち、文法的に異なるものを一つ選び、符号で答えなさい。

〔問五〕 傍線(5)「秋」に掛けられている同音異義語を左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 空き B 飽き C 明き D 安芸 E 商

〔問六〕 傍線(7)「思ふやうなり」という言葉に込められる心情の説明として、もっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 帥宮が地方へ行く女に未練を感じていることに対する、和泉式部の嫌悪
B 和泉式部が地方へ行く女に嫉妬していることに対する、帥宮の得心
C 帥宮が自分の愛情を疑っていないことに対する、和泉式部の安堵^と
D 和泉式部の代作の歌がすばらしいことに対する、帥宮の満足
E 帥宮が代作は当然だと思っていたことに対する、和泉式部の不満

〔問七〕 文中の和歌 (i) (ii) (iii) の説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

- A 代作を頼んだ帥宮への恨みを込めた歌
- B 帥宮から依頼された代作を断る歌
- C 地方へ行く女への送別の歌
- D 地方へ行く女に同情する歌
- E 和泉式部の愛情を頼みにする歌
- F 和泉式部の愛情を疑う歌